郷土かみのかわの歴史・文化財

人物から見た上三川の歴史　今泉盛朝

今泉盛朝は室町時代の永享年間（1429～1440）に上三川城主になったといわれる人物です。上三川城は1249年に築城された当初、宇都宮氏一族である横田氏が城主となり、代々継承されました。その後、小山義政の乱のきっかけにもなった、1380年の「裳原の合戦」において、大敗を喫した宇都宮勢の中にあって、上三川城主横田師綱・綱業親子も瀕死の重傷を負ったことから、上三川城の執務に不都合が生じたため、師綱の子である一族の今泉元朝が上三川城に入り、横田氏に代わって、政治を行うようになりました。

その後、宗家宇都宮氏と横田氏の関係の変化などもあり、上三川城主が今泉氏に代わることになりましたが、この時、上三川城主に任じられたのが、すでに上三川城に入っていた今泉元朝の子である今泉盛朝なのです。盛朝は六代上三川城主の横田泰朝の孫に当たる、横田繼俊の娘を母に持ち、横田氏との関係も深かったことから、スムーズに体制が移行していったことでしょう。そして盛朝は上三川城主になると、長泉寺を菩提寺として建立したのです。

その、長泉寺の境内には、町の天然記念物に指定されている「長泉寺のコウヤマキ」がありますが、この木の樹齢は約500年、つまり、長泉寺が盛朝によって建立された頃と同じなのです。長泉寺を建立するにあたって、盛朝は天英詳貞和尚を迎えましたが、このコウヤマキの木は、和尚がお手植えしたものだと伝えられ、更には、天狗の宿り木という伝説が伝わっています。近郷はおろか国中に名の知れた名僧であった天英和尚の下には、教えを請う者が後を絶たず、あるとき天空と名乗るものが現れ、五年間という長期間に渡って、天英和尚の下で修行を行い、ようやく修行を終えると、天空は天狗に姿を変えて、和尚に感謝すると空に姿を消し、その後、何か異変があるときはこのコウヤマキの周辺で天狗からの霊験が現れたとのことです。

今泉氏の菩提寺として盛朝が建立した長泉寺ですが、他にも、県指定文化財の木造十一面観音菩薩坐像や上三川城主今泉家累代の墓が残っています。宇都宮氏の南端の要であった上三川城主を大任された盛朝が、500年前にまだ若いコウヤマキの木を見ながら何を考えたのか。それを知っているのはこの木だけでしょう。

長泉寺のコウヤマキ

	西暦	年号	できごと
室町時代	**1436**	**永享8**	**上三川城主横田綱業病死。このとき、上三川城では、今泉元朝、盛朝が政治を行う。**
	1438	永享10	永享の乱。幕府、鎌倉公方足利持氏を討つ。
	1439	永享11	上杉憲実、足利学校を造る。
	1441	嘉吉元	嘉吉の乱。将軍足利義教討たれ、幕府の権威が失墜する。
	1442	嘉吉2	伊豆大島が噴火。
	1449	宝徳元	鎌倉府復興。公方に足利成氏就任。
			足利義政、将軍に就任する。
	1450	宝徳2	幕府、関東の争いを調停する。
	1454	享徳3	鎌倉公方足利成氏、関東管領上杉憲忠を誅殺、関東動乱。（享徳の乱）
	1455	享徳4	鎌倉公方足利成氏、古河に移る。（古河公方の始まり）
	1457	康正3	太田道灌、江戸城に移る。
	1467	応仁元	応仁の乱始まる。
	1482	文明14	将軍足利義政と古河公方足利成氏の和睦が成立する。（都鄙の和睦）
	1504	**永正元**	**今泉盛朝により長泉寺が建立される。**
	1509	永正6	宇都宮氏と那須氏が対立。
			鬼怒川・田川で洪水が発生する。
	1512	永正9	古河公方家の内紛が関東・南奥州の領主間抗争と連動して、激しい戦闘となる。（永正の乱）
			芳賀一族が宇都宮成綱に反抗して宇都宮錯乱状態となる。
	1516	永正13	宇都宮忠綱、那珂川町浄法寺で佐竹・岩城連合軍と戦い勝利。